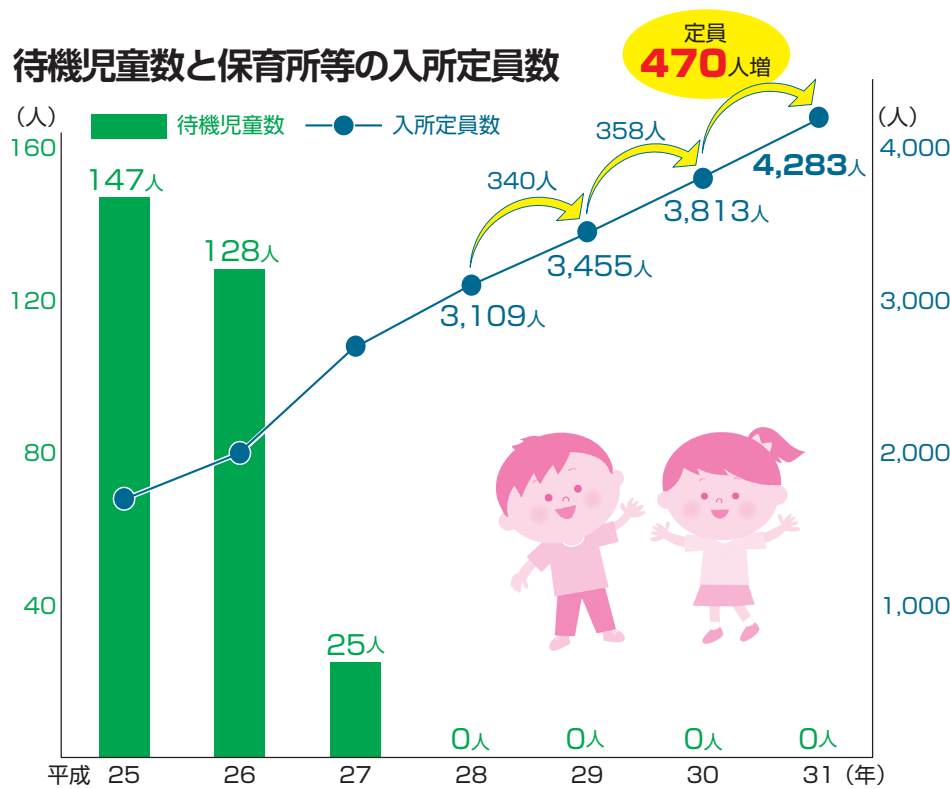


4年連続で「待機児童数」が0

保育所等の新設や定員拡大を着実に進め、待機児童ゼロを達成



昨今の保育需要の高まりに加え、幼児教育が無償化されると需要はますます高まることが予想されます。

そこで市は、昨年度、保育所等の定員を470人拡大。この結果、待機児童数が0になりました(4月1日現在)。

※求職活動を休止している場合や、ほかに利用可能な保育所等の情報提供を行ったにもかかわらず特定の園を希望している場合、育児休業中で保育所等に入所できたときに復職することが確認できない場合などは、厚生労働省による待機児童の定義(市は平成29年度から適用)には含まれません。

昨年度も保育所等を積極的に整備し、定員を拡大

<p>認可保育所</p> <p>定員 3か所新設し、220人分拡大</p> <p>※この結果、市内の認可保育所は計48施設に。</p>	<p>小規模保育事業所</p> <p>定員 5か所新設し、95人分拡大</p> <p>※この結果、市内の小規模保育事業所は計17施設に。</p>
<p>認可保育所の分園</p> <p>定員 2か所新設し、77人分拡大</p>	<p>既にある保育所等の定員 78人分拡大</p>

今後もさまざまな手法を組み合わせながら待機児童対策を実施

市は、保育需要が高い0~2歳児の受け入れに特化した公私連携型の保育所を旧青少年センター跡地に整備していきます(令和3年4月開所予定)。同保育所では、子育て支援施設(きらきらぼし)と同様に、幼稚園の前後に預かり保育をして各幼稚園の通園バスで送迎する「送迎ステーション事業」も実施する予定です。今後も待機児童0を継続していくために、保育所等の新設支援や入所定員の拡大などに取り組めます。

不妊・不育症の治療費を助成

市は、子どもが欲しいと願う夫婦の経済的・精神的負担を少しでも軽減できるよう、不妊や不育症の治療費を助成しています。

不妊・不育症治療をめぐる動向

■検査や治療を受けたことがある夫婦は約18パーセントで増加傾向※1



■保険適用外の治療費は高額に(体外受精や顕微受精の場合、1回20万～70万円程度※2)

検査や治療を受ける人が増えています

※1「第15回出生動向基本調査」(国立社会保障・人口問題研究所)より
 ※2「不妊のこと、1人で悩まないで」(厚生労働省)より

助成額

一般不妊：上限5万円/期間
 治療開始から1年間で1期として自己負担額の2分の1

特定不妊：上限5万円/回
 県の助成を受けている人が対象。保険適用外の医療費から、県の助成額を控除した額の2分の1

不育症：上限30万円/年度
 保険適用外の医療費

ぜひご活用
 ください!



※助成対象には所得制限などの要件があります。詳しくはお問い合わせください。

不妊・不育症に関する相談は、神奈川県不妊・不育専門相談センター☎0463(34)6717または市すくすく子育て課へ。

問い合わせは▶保健福祉センターすくすく子育て課母子保健係☎046-260-5609 FAX 046-264-0142

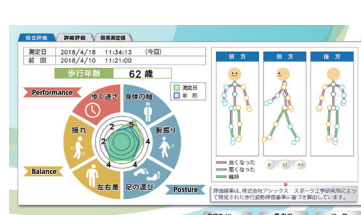
6m歩くと歩行年齢が分かる! 歩行姿勢測定システムを導入

6m歩いて歩行姿勢を測定



3Dセンサーに向かってまっすぐ6m歩いて、歩く速さ、歩行姿勢で特徴的な歩幅(左右)、胸と腰の上下動、足の上り角度(左右)を測定し、それぞれを数値で表します。

6分野を5段階で評価



歩く速さ、揺れ、左右差、足の運び、腕振り、身体の軸の6分野を5段階で評価。その評価から、速度年齢、姿勢年齢、バランス年齢を算定し、歩行年齢を表示します。

スポーツフェスタ2019(6/23(日)・大和スポーツセンター)で測定会を実施します!ぜひお試しください。

問い合わせは▶保健福祉センター健康づくり推進課歩こう係☎046-260-5803 FAX 046-260-1156

食中毒にご注意を

これからの季節は湿度や気温が高まり、細菌性の食中毒が発生しやすくなります。次の3点に注意し、食中毒を予防しましょう。

食中毒菌を

つけない

手、食材、調理器具をしっかりと洗う

増やさない

調理した食品は早めに食べ、保存は冷蔵庫で

やっつける

加熱調理は中心部までよく火を通す

問い合わせは▶保健福祉センター健康づくり推進課保健衛生・がん予防係☎046-260-5662 FAX 046-260-1156